

自己評価報告書

平成 23 年 5 月 11 日現在

機関番号：15401

研究種目：基盤研究 (B)

研究期間：2008～2011

課題番号：20330186

研究課題名 (和文)

音楽的リテラシーの育成を目指した保幼小中連携音楽カリキュラムの開発

研究課題名 (英文)

The development an inter-school collaborative music curriculum from preschool through middle school designed to foster musical literacy.

研究代表者

三村 真弓 (MIMURA MAYUMI)

広島大学・大学院教育学研究科・教授

研究者番号：00372764

研究分野：音楽教育学

科研費の分科・細目：教育学・教科教育学

キーワード：音楽的リテラシー、保幼小中連携、音楽カリキュラム

1. 研究計画の概要

(1) 幼児・児童・生徒の音楽的能力調査

- ① 幼児の歌唱能力調査
- ② 児童の歌唱能力調査
- ③ 生徒の音楽学力調査

(2) 音楽カリキュラム研究

- ① 日本の音楽科カリキュラム研究
- ② ハンガリーの音楽科カリキュラム研究
- ③ アメリカの音楽科カリキュラム研究
- ④ オーストラリアの音楽科カリキュラム研究
- ⑤ イギリスの音楽科カリキュラム研究
- ⑥ ドイツの音楽科カリキュラム研究
- ⑦ 日本の音楽科教科書分析
- ⑧ ハンガリーの音楽科教科書分析
- ⑨ アメリカの音楽科教科書分析
- ⑩ フランスの音楽科教科書分析

(3) 幼小中連携音楽カリキュラムの開発

2. 研究の進捗状況

本研究の研究方法は、主として、(1) 幼児・児童・生徒の音楽的能力調査、(2) 音楽カリキュラム研究、(3) 幼小中連携音楽カリキュラムの開発を中心としている。

(1) 幼児・児童の歌唱能力調査、および生徒の音楽学力調査を行った結果、それぞれの発達段階での歌唱能力や音楽学力の諸相が明らかとなり、小学校や中学校の音楽科授業や、就学前教育での音楽活動における問題点や課題が明確となった。特に、中学校 1 年生を対象とした学力調査の結果から、小学校修了時の音楽学力が小学校学習指導要領で規定されている内容に到達していないことが明らかとなったことは危惧すべき点である。一方、歌唱能力調査の結果からは、音楽カリキュラムを作成するうえでの要件、系統性等に

についての示唆を得ることができた。

(2) 音楽カリキュラム研究としては、日本の音楽科教科書分析、アメリカの音楽科教科書分析を行った。その結果、日本の音楽科教科書の学習内容には系統性が欠けていることがわかり、アメリカの音楽科教科書では基礎・基本の学習内容にある程度の系統性があることが明らかとなった。ハンガリーの音楽科教科書分析とフランスの音楽科教科書分析は現在進行中である。音楽科カリキュラム研究に関しては、日本・アメリカ・オーストラリアを行い、ハンガリーとイギリスは現在進行中である。ドイツに関しては平成 23 年度に着手する予定である。これらを踏まえて、各国のカリキュラム比較を行う。

(3) 幼小中連携音楽カリキュラムの開発に関しては、平成 23 年度に広島大学附属三原学園の幼稚園・小学校・中学校で系統的な音楽カリキュラムを作成し、試行する予定である。

3. 現在までの達成度

② おおむね順調に進展している。

各国の音楽科カリキュラム研究や音楽科教科書分析は、膨大な内容を含んでいるため、すべてが終了しているわけではないが、現在進行中のものも含め、平成 23 年度中には成果が挙げられると考える。

4. 今後の研究の推進方策

研究組織には院生も含まれており、現在院生とともに音楽科カリキュラム研究や音楽科教科書分析を多角的に行っている。

幼小中連携音楽カリキュラム開発に関しては、現職の教員を含んだ研究組織でカリキュラム開発をし、試行する予定である。

5. 代表的な研究成果

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文] (計19件)

1. 三村真弓、伊藤真ほか、音楽リテラシー育成のための基礎的研究(3)ーサイレント・シンギングに着目してー、広島大学学部・附属学校共同研究紀要、第39巻、査読無、2011、pp.147-152

2. 三村真弓、吉富功修、わが国における音楽科学力調査に関する研究、中国四国教育学会教育学研究紀要 (CD-ROM 版)、第56巻、査読無、2010、pp.625-630

3. 三村真弓、吉富功修ほか、音楽リテラシー育成のための基礎的研究(2)ー小学校音楽科教科書のカリキュラムの検討を中心にー、学部・附属学校共同研究紀要、第38巻、査読無、2010、pp.143-148

4. 吉富功修、三村真弓、小学校学習指導要領・音楽科に示された音符・休符・記号等の知識の習得状況ー小学校音楽科における学力の一環としてー、音楽教育学、第39巻第2号、査読無、2009、pp.29-31

5. Mayumi Mimura, Sachiko Kitano, Katsunobu Yoshitomi, Hiroaki Takeuchi, Singing abilities of kindergarten and elementary school children: Assessment of the vocal pitch matching abilities, *Asia-Pacific Journal of Research in Early Childhood Education*, Vol. 3, No. 1, 2009, pp.29-52. 査読有

[学会発表] (計8件)

1. 三村真弓、吉富功修、わが国における音楽科学力調査に関する研究、中国四国教育学会第62回大会、2010年11月21日、香川大学

2. 三村真弓、吉富功修、1960年代から1970年代における「二本立て方式による音楽教育」の盛衰に関する研究ー北海道音楽教育の会の活動を中心としてー、日本教育学会第69回大会、2010年8月21日、広島大学

3. Mayumi Mimura, Katsunobu Yoshitomi, Shin Itou, Nien-Tzu Chao, Fei Wu, A cross-sectional study of the development of singing ability in children singing in unison – focusing on with or without

musical accompaniment or performance feedback, Pacific Early Childhood Education Research Association 11th Annual Conference, July 26, 2010, Venue in Aigrette Bay Narada Holiday Hotel, Hangzhou, China.

4. 吉富功修、三村真弓、小学校学習指導要領・音楽科に示された音符・休符・記号等の知識の習得状況ー小学校音楽科における学力の一環としてー、日本音楽教育学会第40回大会、2009年10月3日、広島大学

5. Mayumi Mimura, Sachiko Kitano, Katsunobu Yoshitomi, Hiroaki Takeuchi, Singing Abilities of Preschool and Elementary School Children: Assessment of the Vocal Pitch Matching Abilities, Pacific Early Childhood Education Research Association 9th Annual Conference, July 8, 2008, Faculty of Education, Chulalongkorn University, Bangkok Thailand.

[その他]